

NEPAL×JAPAN 多文化共生の街づくりへの第一歩

学校名	愛知県津島市立東小学校		授業者氏名	大島 俊介
対象学年 (人数)	小学校4年生(30名)		実践年月 (時数)	2023年10月～11月 (13時間)
担当教科等	全科			
単元名 (活動名)	NAPAL×JAPAN 多文化共生の街づくりへの第一歩			
実践する 教科・領域	総合的な学習の時間			
学習領域	A 多文化社会 … 文化理解 (○) / 文化交流 () / 多文化共生 (○) B グローバル社会 … 相互依存 () / 情報化 () C 地球的課題 … 人 権 () / 環 境 () / 平 和 () / 開 発 () D 未来への選択 … 歴史認識 () / 市民意識 (○) / 社会参加 ()			
単元目標	・異文化交流を通して、異文化の面白さに気づき、多文化共生社会の実現に向けてできることを考える。 ・外国人の視点で自身の生活を振り返り、外国人にとってやさしい街づくりを目指すためのアイデアを考える。			
単元の 評価規準	知識および技能	・日本と世界の文化の違いを知り、共通点や相違点に気付くことができる。		
	思考力、判断力、 表現力等	・多文化共生社会を実現できた未来を想像し、多文化共生を実現するための課題を考えることができる。		
	学びに向かう力、 人間性等	・日本語が話せない友達ができたときに、行動に移すことができる。		
単元設定の 理由・意義 (児童生徒観、 指導観、教材 観から)	・本校は、外国にルーツがある児童が比較的多く、外国人児童の転入も進んでいる。特に今年度は、学年は違うが、10月までに2名の児童が転入してきている。担当学年の中には外国にルーツがある児童は少ないが、さまざまな文化にふれる機会が多くなってきていると感じる。そこで、子どもたちに外国人児童を引き受けることになったらどう感じるかと問うと、半数以上が心配な気持ちになると答えた。理由を問うと、言語が伝わらないことが大半を占めた。重ねて理由を問うと、言語の壁を越えた関係づくりに対して知識や経験がなく、心配に感じているのだと分かった。 ・本実践では、異文化に触れあう機会を積極的に設けることで、他国の文化の面白さや楽しさを体感させたいと考えた。また、いざ外国人を迎え入れたときに心配に思ってしまう気持ちを理解し整理することで、課題と解決策について考えさせることにした。このような学習を通して、多文化共生の必要性や当事者意識をもたせたいと考えた。 ・本実践の教材は、本校に在籍しているネパール国籍の保護者への取材と、教師海外研修(ネパール)での取材から作成した資料を用いて行っている。特に、私がネパールで体感してきた文化の共通点と相違点を感じた場面を教材化できるように工夫した。それは、研修中の実話を基にした学びを提供することで、異文化理解への関心を高めることがねらいである。			

[単元計画 (全13時間)]

時	ねらい	学習活動	資料など
1	ネパールの食事や音楽、ダンスから、世界にはさまざまな文化があることを知る。	「 ネパール報告会 」 ・ネパールで食べた料理や、体験した音楽やダンスについての紹介を聞く。【クイズ】 ・ネパールの小学生と一緒に踊ったソーラン節の動画を視聴する。	〔写真〕 料理、飲み物、店舗 食べ方など 〔動画〕 民族楽器、伝統舞 踊、ソーラン節など 〔実物〕 楽器、国旗など
2・3	ネパールと日本の文化の違いをつながりを知ることで、ネパールという国に肯定的に出会う。	ネパールについてもっと知ろう 「 ネパール博士になろう！ネパールクイズ 」 ・グループで協力してクイズに答える。【クイズ】 ・ネパールで取材してきた動画や写真を見て、答え合わせをする。	〔実物〕 楽器、スパイスなど
未実施	他国の文化体験を通して、異文化理解への関心を高める。 ※保護者の都合で年度末・次年度に延期	「 ネパール料理を実際に食べてみよう 」 ・ネパール国籍の保護者にネパール料理の体験教室を開いてもらい、調理実習をする。 ・民族楽器の演奏を聞かせてもらい、言語を越えたコミュニケーションについて理解する。	〔実物〕 二人乗りノーヘル ホームステイ中 視覚障害者と高校生 〔取材〕現地コーディネーター・通訳から
4～6	ネパールとの共通点と相違点について考えることで、他国の文化の面白さや楽しさを理解する。	「 実録 NEPAL ドラマ！研修中の実話7 」 ・共通点と相違点に肯定的に出会う。【ロールプレイ】 ・共通点と相違点を分類する。【カード式整理法】 ・自分にできることかどうかを考える。【二次元軸】	〔写真〕 二人乗りノーヘル ホームステイ中 視覚障害者と高校生 〔取材〕現地コーディネーター・通訳から
7・8	外国人の友達を招き入れたときに、どんなことが起こるのかを考える経験から、自分が潜在的にもっている外国人へのイメージを知るとともに、どのような未来をめざしていくのかを決める。	「 外国人が友達になったらどんな未来に…ベスト3 」 ・外国人と友達になることでどんな未来が待っているかを考える。【派生図】 ・外国人と友達になったときにおとずれる良い未来と悪い未来をふくらませる。【ブレインストーミング】 ・良い未来についてベスト3を決めて、どちらの未来をめざしていくのかを決める。【ランキング】	
9	自分が少数派になったときの感覚を養わせることで、外国人が日本に来た時に、どのような気持ちになるのかを理解し、多数派としてできることを考える。	「 世界の言語であいさつゲーム 」 ・1回目は世界の言語の人口比率に合わせたカードで行うことで、世界の現状について理解する。 ・2回目は愛知県の人口比率に合わせたカードで行うことで、少数派になったときの感覚を養う。 「 異文化コミュニケーションゲーム パーンガ 」 ・自国のルールと他国のルールの違いを体感し、少数派になったときの感覚を養う。	あいさつカード 愛知県人口比率 バーンガカード
10・11 本時	学校外で利用する施設が外国人にとって優しいのかどうかを考えることで、外国人への配慮の方法がたくさんあることを知る。	「 外国人にとって優しい街づくりデザイン 」 ・日常生活で利用する施設について思い出した後、7つに絞り込む。【ブレインストーミング】 ・『こんな〇〇があったらいいのに』というアイデアをイラストと言葉でかく。【イメージ図】	
12		・作成したイメージ図の中で、この仕組みを早く作った方がよいというアイデアがかかれたものをえらび、投票する。【重みづけ投票】	
13	実際に外国人の友達を迎え入れたときに、自分にできることを考える。	・学習を振り返り、自分にできることを考え、行動宣言をする。【行動宣言】 ・第6時の二次元軸から自分の考えの変化について気付かせる。	

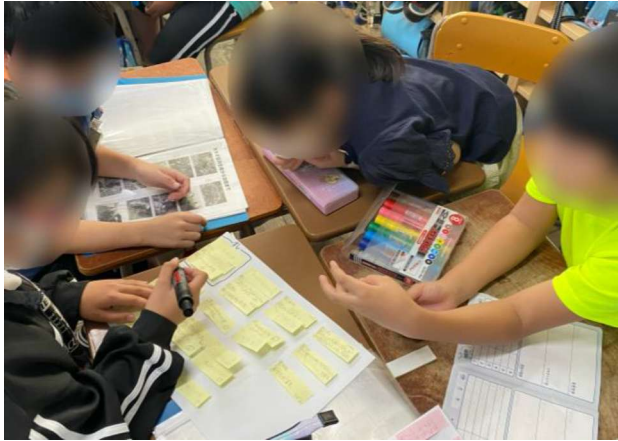
[本時の展開 (10・11時間目)]

ねらい	・学校外で利用する施設が外国人にとって優しいのかどうかを考えることで、外国人への配慮の方法がたくさんあることを知る。		
過程・時	教師の働きかけ(○)、発問および学習活動(●)	指導上の留意点(支援)	資料
導入 5分	1 アイスブレイク「ステキなハート」でグループに分かれる。 ●言葉でハートの特徴を説明して、同じハートをもっている人を探す。	・以後のグループ活動が活発に行われるように、同じハートをもつ安心感を味わわせる。	ハートが書かれたカード(人数分)
展開 15分	めあて: 外国人にも優しい街づくりを考えよう。 2 日常生活で利用する施設を書き出す。【ブレーンストーミング】 ●意見出しが終わったら、グループの中でおすすめの施設を3つ以内で発表する。 ●他と重なった場合は、それ以外の施設で発表する。 ○次の学習のために、アンケートづくりを並行して行い、教師のタブレット画面を共有しておくことで、子どもたちにどのような意見が出てきたのかをリアルタイムで確認できるようにする。	・子ども主体で行うために、施設を考えるとところも子どもに任せるが、ここでの意見共有は主の目的ではないため、手際よく進める。	
10分	3 7つの施設に絞り込む。【アンケート】 ○アンケートを配付して、子どもたちに答えさせたあと、アンケート結果を棒グラフで示し、共有する。 ●票数が多かったものを整理して、7つに絞り込む。 ●どの施設を担当するのかを相談して、立候補する。	・Forms を利用して、即座にアンケート結果が提供できるようにする。 ・少数派の意見でも、合体する案を出して、拾い上げるようにする。	
45分	4 担当する施設について、どんな工夫が考えられるのかを話し合う。【イメージ図】 ●施設の概略図を自由に書きながら、どのような工夫があるのかを書き出していく。 ○概略図のイメージがわからない場合は、Aiで生成した概略図を参考に、イラストを描かせる。	・インターネットに依存するのではなく、自分たちの自由な意見を考えさせたい。 ・教師の働きかけの内容を明確にもっておく。	働きかけの目的(外国人を対象として) ☐言語の支援方法 ☐楽しさ、おもしろさ ☐リピーター ☐他国の文化の取り入れ方 例: この表示の仕方はどうすると外国人にやさしいですか?
15分	5 他のグループと意見を共有する。 ●ギャラリー方式で成果物の共有をして、他のグループの意見を取り入れることで、自分のグループの成果物をより良いものにする。 ○これ以降、自由に他のグループに移動して意見を共有しに行ってもよいことにして、活発に意見が交わされるような雰囲気をつくる。	・次時に投票をすることを伝えることで、成果物の完成度を高めさせる。 ・すべての施設を一斉に改善することは難しいことを伝えるために、優先順位をつけていく意味を示したい。	
評価規準に基づく 本時の評価		・多文化共生社会を実現できた未来を想像し、多文化共生を実現するための課題を考えることができる。 A 多文化共生社会を実現できた未来を多面的・多角的に想像することができ、実現のためにどのような課題があるのかを考えることができる。 B 多文化共生社会を実現できた未来を想像し、多文化共生社会の有用性を感じることができる。	

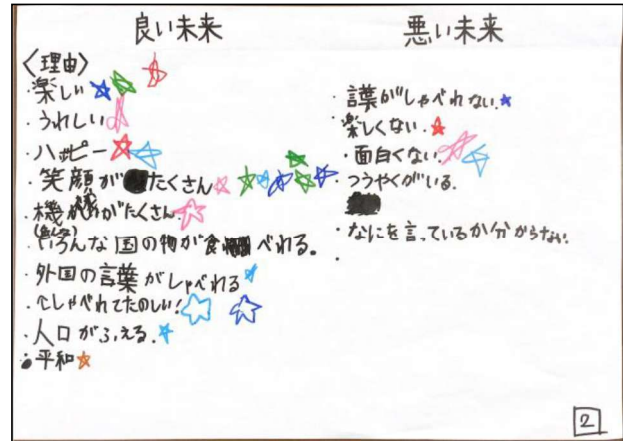
〔総括・まとめ〕

学習方法および外部との連携	・JICA 海外協力隊でネパールに派遣されている方から、現在のネパールの景色や現地の人との写真を提供していただき、子どもたちに紹介した。子どもたちにとって、外国が遠い存在に感じている子どもがいたため、「ネパールで活動している友達から、頑張っているあなたたちのために、写真が届いたよ」と伝え、写真を利用した。特にマリーゴールドの花を見せた時の歓声が印象的であった。
学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み	・夏季休業後、現職教育の時間をもらい教員研修を行った。外国人に対して内向的に接してしまっていた私自身の反省を共有しつつ、これから外国人を受け入れるときに、どのような心構えで受け入れたいのかを考える機会にした。 ・全校生徒を対象に、ネパール報告会を行った。「日本人でも外国人でも、一緒に楽しめる学校であろう」という思いを、子どもたちと共有する機会になった。
苦労した点	・教師の実体験を聞かせるだけでは、小学生に自分は言語の壁を越えられるかを想像させることは、難しかった。今回は、ソーラン節を教えた動画やホームステイの歓迎会で一緒に踊った動画を視聴することでしか、言語を越える体験を話すことができなかった。理想としては、ネパールの料理や音楽の体験会を設けたかった。この体験会を通して、子どもたちに言語を越える体験をさせられると考えていたので、今後の実践の中で必ず実現させたい。
改善点	・JICA 海外協力隊や JICA ネパール職員など、現地で活動している方とオンラインでつながる機会を設けることができれば、外国への関心はより広がったのかもしれない。現地の方との打ち合わせなど、プログラム化することで、もっと容易にオンラインでのつながる機会を提供できると思うので、今後の実践で挑戦しつつ、環境整備にも取り組んでいきたい。
成果が出た点	・実践が終わった12月に、日本語を話せない外国人Aを受け入れることになった。子どもたちに「本当に外国人を迎え入れることになりました」と伝えと、あいさつの仕方を調べてきたり、同じ国にルーツがある子を中心に自己紹介の仕方を勉強したりと、子どもたちが主体となって準備を進める姿を見ることができた。実際に迎え入れてからは、子どもたちは翻訳ツールを使いこなしながら、Aに日本に来てよかったと思わせたい一心で、話したり遊んだりしている。小学生が、自分たちの生活の中で自分たちの力で言語の壁を越えていくことができているのは、本実践が有益に働いたことが理由にあるのであれば、この上なくうれしい。ただ、子どもたちが自分でこうしたいと考えて行動していることを忘れずに、子どもたちの可能性を少しでも広げてあげられるように、私自身も研鑽を積んでいきたい。
学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	・外国にルーツがある子どもが、自慢げにもう一つの故郷のことを話しにきたり、その国の言語の勉強を始めたりしている。もう一つの故郷に誇りをもった子どもたちに感動している。 ・「外国人だから優しくするのはではなく、一人の人として優しく接することができる人になりたい」と話す子どもがいた。子どもに勉強させられることの方が多かった。
授業者による自由記述	・ネパールでは、五感を余すことなく使って学んできた。ネパールのことが本当に大好きになった。日本には、中国人やベトナム人、韓国人のように、多くの外国人が日本で暮らしており、ネパール人も13万人を超えている。日本で暮らしている外国人は、日本のことが好きだと思っているだろうか。身近で生活している外国人はどうだろうか。この研修を受講して、この思いは強くなった。そして、この研修のおかげで、未来を生きる子どもたちとともに、本気で多文化共生社会を目指して邁進していきたいと思うようになった。間違いなく、この研修は自分の人生をアップデートする機会になる。また、今後の海外研修参加者とも、この感動を共有できるのかと思うと、楽しみでならない。 ・本実践は、ネパールでの研修がなかったら実現できないことばかりである。昨年度まで、開発指導者研修の経験を生かして国際理解教育の実践を行ってきたが、海外研修での学びを自身の実践に取り入れたいと懇願してきた。それを実現できたことが何よりうれしい。改めて、本研修に携わった関係者やともに学んだ仲間感謝を伝えたいと思う。
単元構想・実施における参考資料等	・株式会社ハートクエイク「異文化コミュニケーションゲーム『バーンガ』」を参考に教材開発 https://heart-quake.com/article.php?p=592 ・教師海外研修で収集した取材資料

[学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)]



実録 NEPAL ドラマ！ 研修中の実話7 カード式整理法の様子

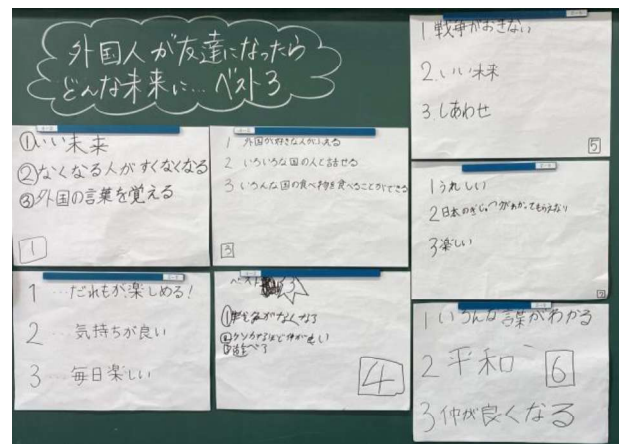


外国人が友達になったらどんな未来に 対比表の成果物



外国人にとって優しい街づくりデザイン 投票の様子

外国人にとって優しい街づくりデザイン 成果物



外国人が友達になったらどんな未来に 良い事ベスト3

振り返りシートの記述

